

現地視察会アンケート 感想・意見

■ 島田委員

- ・敷地の細分化は今後もあり得る話だと思うが、現行の緑の条例や開発指導要綱では緑の保全に対応出来ないか。
- ・再開発による公園を生み出す方法は小公園と言えども良い方法である。今後、区内での再開発の計画予定地はあるか。また区ならびに都による公園整備の今後の計画予定地はあるか。
- ・橋の形態、色彩、橋名のデザイン等々バラエティに富んでいるように思うが、これらについては、何か方針をもって対応しているのか。ライトアップを順次図っていく話だったが、先のような事柄についても検討しても良いと思われる。
- ・護岸のツタ類が茶色くなっているところが所々見受けられましたが、枯死しているのか。もしそうであれば対策が必要。
- ・橋の裏側は見る機会が無かったのですが、デザイン等一工夫するともう少し綺麗になると思われる。
- ・都市河川は周辺市街地の気温低下に貢献大と言われており、兩岸沿いの土地利用、公園緑地とのネットワーク、集合住宅等の建築物の建て方（方向）と風の流れなどの関係が気になる場所である。
- ・対岸からも含め護岸沿いの緑化、建物の壁面の緑化、親水性など、状況が良く分からないところもあるので要検討。そんな中で勝島運河沿いの花街道は良い事例である。
- ・モノレール沿いの京浜運河は、天王洲アイルの緑、緑道公園やなぎさ公園のような緑化や緑の配置によって、より良好な緑のエッジが形成されるのではないか。
- ・総じて河川環境をより活かした一体的なまちづくりの推進が必要だと思う。

■ 村上委員

水についてはとても強力な資源を多く持っていることがわかった。他方、栈橋などが人に知られていないように思う。いかに親水を体験してもらえかが必要である。水辺空間だけでなく、市街地側と一体で考える必要がある。五反田の栈橋も認識されていないのではないか。緑については、密集地区では小さな空間の小さな緑をいかに位置付けるかが重要である。緑被率では把握できないのではないか。水・緑とも、いかに活用するかを議論していきたい。

■ 高木委員

○ 緑関連

- ・大きな敷地が所有者の事情でデベロッパーに売却され狭少宅地化されて緑が減少していることがよく分かった。この件に関してはすでに実施しているかもしれないが、区独自に条例等で一定規模の開発敷地に関しては植栽をコントロールできるとよい。「一定規模」の定義がポイントとなると思われる。
- ・防災街区整備事業について、防災上不利となる密集市街地においてこのような開発が進むと不燃化建築や緑、空地が増えるなどして良い。

- ・公園、学校の校庭及びこうした大規模開発で生まれる公開空地をそれぞれのエリアごとに GIS 等でデータ化し、現状やその役割と活用について整理し、行政として誘導できると良い。

○ 水関連

- ・船から見る風景は非常に良い。
- ・品川区には良いところが多くあり、水辺の積極的な活用に対する展開を感じた。今後の展開としてこれら一つ一つの連携を強化し、地域の魅力に繋げていくことが重要になる。

① 良さを気づかせ、水辺の整備エリアを結ぶ

- ・船からの風景などの良さは実際に舟に乗らなければわからない。いかに舟に人を乗せるかが重要であり、日常使いできることを考えることが必要である。単なる水上バスや水上タクシーではなく、さらなる機能を付加する事で利用を促進する。

例えば、

- (1) 自転車ごと乗れる舟
- (2) 船着場とレンタル自転車スポットを併設する事による水上と陸側の移動手段の連携による面的なネットワーク構築
- (3) 新しい技術等の積極的な導入による利用促進（港区等で実証実験が始まっている電動キックボードとの連携など）

このような仕組みにより、水辺の整備エリアを結ぶことができ、機能連携へ導くことが可能になると考える。

② 河川・運河全体を視野に入れたトータルデザインでそれぞれの機能を連携

- ・河川、運河と後背地を一体的に捉えた“水辺”からのまちづくりを展開することがポイントとなる。例えば、交通機関に近接した水辺、住宅エリアの水辺、倉庫街の水辺、賑わい施設に近接した水辺等において棧橋と水際の利用デザインが変わってくると考える。
- ・次は、具体的にスポットを選定し、地域の特性を踏まえた具体的な利用デザインを行い「あるべき姿」を提示していくことである。その際、河川・運河全体を視野にいれ、機能連携ができるトータルデザインがポイントと考える。
- ・また、「品川区水辺利活用ビジョン」でも親水性等に着目した素晴らしいイメージの展開は検討されていると思う。こうした検討内容に、環境（水質だけでなくごみ問題など）や防災、公共交通、静脈物流などの視野をトータル的に考慮した計画を付加することが有効である。
- ・国内外ではこれらに IoT 等のデジタルインフラとの連携を積極的に検討しており、そのような先端技術の導入等も視野に入れるべきである。

③ 実現に向けて

- ・行政の縦割りを意識しない「“水”を中心としたまちづくりのための組織」を設置することが有効的である。地元+企業+専門家+行政による産官学が連携した組織であり、ここが頭脳となってあるべき姿を考え、それを実行できる組織であり、支援する組織ではなく、先頭となって牽引していくことが重要である。
- ・専門家に関しては、大学、コンサル等だけでなく、エンターテイメントや芸術的な側面の専門家にも入ってもらうなど、幅広い人々によって構成され、様々な視野からイノベーションが行われることがポイ

ントである。

- ・アート等との連携は重要なファクターである。このようなことは地域の魅力発信の強化に繋がり、観光的な側面でも有効である。海外ではそのような展開が積極的に行われており、特に北欧など斬新な活動が多く展開されている。

■ 綱島委員

① 西品川一丁目地区

個人の住宅を緑化につなげていくことは無理があると思う。公園にするにも予算に限りがある。

② 同潤会地区

木造密集地域での開発は、地域の人々の並々ならぬ努力の賜物であり、区内に同じように広げていくにも時間がかかる。足元からできることを少しでも始めていくべきである。

③ 勝島運河のしながわ花海道

これからの緑の施策の一方向を示している非常に良い事例ではないか。このような事例を全区内に広げていくことにより、住民の緑に対する意識向上に必ず繋がる。行政としてしっかりと支えてほしい。

■ 永尾委員

① 同潤会地区

防災、減災の観点から創造された未来型の居住施設、まちが整備されて近隣住民も安堵していると思う。緑が少なくなったことは多少残念である。品川区は小中一貫が進んでおり、一極集中型の学校にし、学校を減らしてその跡地を活用する。現在、わたしの周辺の隣接する小学校の改築が始まっていますが、どちらか一校に統合するなど…

② 目黒川散歩

水上散歩は癒しの空間で心地よい時間であった。目黒川は桜の季節は賑やかで、都内でも有数の花見の場所になってきた。しかし、さくらが散り始めると無機質で、変哲のない静かな川に戻っている。そこで、地方の川で見受ける川下りを目黒川でも一年を通してできないか。例えば川下りに使う船を、舟運業者に協力してもらい和船にして、風流感を醸し出す。そして兩岸の景観の見直しを行政が大胆に進める。私自身も、目黒川の桜を見たくてゴムボートを購入、船舶免許も取得して毎年見学している。（ゴムボートで走ると、ゆったり感があり浅瀬の中目黒まで登れる。ゴミの浮遊物も気になる。）

③ 天王洲エリア

水辺のエリアとして、洗練されたステキな街になり、自慢できる街に変貌してきた。これも関係者の努力の賜物である。勝島運河周辺も少しでも参考に出来たら良い。

④ 京浜運河

開放感があって素晴らしい場所である。モノレールや飛行機の低空飛行が子供のころ見た絵本の「のりもの」の世界にいる感じである。そこで、陸の道路には車道と歩道があるが、京浜運河にも動力船と非動力船を分ける工夫が出来ればお互いに安心して航行出来ると思われる。

⑤ 勝島運河

当事者として、海側から眺めても素晴らしいと思えるような花壇づくりの工夫が必要と感じた。また、勝島運河は非動力船の発着場として利用している人が増えてきている。そこで、東品川海上公園船着き場の整備が進んでいると説明があったが、ブルーの浮き桟橋が不要になったら、勝島運河に頂ければ有効活用が出来るかと確信している。ご配慮をお願いしたい。

■ 嶋村委員

① みどりについて

ミニ分譲は、指導要領をつくり緑化推進を求めるべきはないか。(例えば200㎡を超えるような開発等…)

ミニ開発だと、1敷地25mくらいだが、4住戸以上は対象として考えてはいかがか。

おなじ緑でも保存樹林は街の資産としてはどうか。

維持管理費に見合う分、床面積の増加を認めるなど。

また、活きた緑か死んでいる緑かの評価はできているのか。花海道は、活きた緑である。八潮は緑が多くても活用されていない。例えば、緑の量や利用管理係数のような指標ができるか？

水辺については、護岸利用とあわせて～での利用も区と協力して進めていきたい。

② 水辺について

・水辺の施設について

桟橋の整備については、品川区の尽力によって、川での桟橋整備が進み大変よい。また、NPO 花海道や天王洲でのルネサンス協議会を通して護岸が整備されていることは素晴らしいと感じた。これも民間と区の支援によるものと思う。

・水辺の観光について

観光には3つの視点があると考えている

(1) 事業者の動力線を利用した観光

(2) 水辺を散策するなどの生活サポートとしての観光

(3) 手漕ぎのボートなどによる体験型観光

(1)と(2)に対しては、拠点となる桟橋付近でのインフラ整備はかなり進んできていると思うが、今後の課題としては、そのアピールと利用連携をどのように行うか？

(3)については、利用できる拠点を勝島運河にももうけることとともに、それぞれの場所に利用者の利便性を考慮した施設(倉庫、シャワー、便所、駐車場等)が必要である。

また、東品川での手漕ぎ用桟橋設置は大変結構な一歩だと思うが、場所柄、初心者利用は事業者の交通等考えると勝島運河などの初心者体験場所も必要と考える。

勝島・浜川・鮫洲地区ルネサンス協議会設立時の目標スケッチを別紙用意するのでご覧いただきたい。

勝島運河沿いの水辺の回遊性確保のための構想案1

勝島・浜川・鮫洲地区運河ルネッサンス協議会



立会川の「へそ」からはじまるまちづくり (案)

しながわ区民公園の入口アプローチ橋を伸ばし、天祖神社の参道を伸ばしてゆくと、偶然にも軸が直行している事を見つけた。また、その場所が、かつて土佐藩の砲台跡であったことを思うと、この場所が、過去から現在、そして未来へとつなぐ「まちのへそ」ではないかと思えた。へそからまちを眺めた時、このまちの未来を見つけたので、ここに提案する。

提案1 区民公園から延伸する橋を架ける

橋がかかることで、勝島運河を眺めながら回遊する動線が完結する

提案2 立会川商店街を延伸する。

商店街を延伸する道を設けると、「へそ」につながってゆく。競馬場へのアクセスの向上と商店街の認知度が高まることになる。

提案3 浜川ポンプ場を干潟公園とする。

ポンプ場に干潟公園を設け、ピオトープ公園とする。勝島運河の景観を向上し、「里川タウン」を目指す。

提案4 浮き桟橋とポートハウスの設置

なごさ会館に沿った場所に浮き桟橋を設置し、カヌー等の行える環境を整えたとともに親水空間と回遊空間を形成する。

提案5 立会川の親水テラス

立会川に親水テラスを設け、川に面する商店街をアピールする。



■ 伊東委員

木密住宅から共同住宅へ再開発された事により防災減とはなったが、オープンスペースが少なく感じられた。オープンスペースは住民コミュニティの場を作り出す機会と場所を与えるため重要である。色々な方々の TPO に合わせ利用できるよう大小様々なスペースがあった方が良い。水辺には防災栈橋が多く造られ、特に目黒川では春にはお花見クルーズ、秋には紅葉クルーズ、冬には冬の桜イルミネーションクルーズと往来も多くなった事により、川底には多くの酸素が取り込まれた為か浄化され、臭いもなくなって来ていたが、今夏の新型コロナ禍により船舶の往来が少なくなった為か、目黒川には臭いが発生していた。目黒川浄化の為には船舶の往来をさせるのが一番良いと思われる。その為には魅力ある目黒川にし、観光化する事が必要。年間を通じ観光客を引き付ける魅力を考慮した時、花や緑化だけでなく護岸に物語絵やアニメなど描くのはどうかと思う。又、魅力ある目黒川を全国から募集（懸賞）しても良いのではと思う。全国から募集（懸賞）する事により目黒川をより多くの方に周知し、話題になる。又、当選や出来上がった時に話題になり、その事が品川の魅力ある観光資源となり、目黒川クルーズが活性化する事により川底が浄化されます。

■ 前田委員

「水とみどり」への取り組みをなされている現場を見せてもらい、区が同潤会地区などご苦労なされながら取り組まれているのを知ることができ、有意義な視察会であったと思う。

次の「水とみどりの基本計画・行動計画」を策定に当たり、優先順位、困難な問題等があるとは思いますが、感想を書かせていただく。

① 「みどり」について

- (1) 密集住宅地域を中心に、全体的に灰色というイメージが浮かんだ。
- (2) 大きな通りでも街路樹が整備されていないところが見受けられた。歩道が狭いなど物理的に無理な場所は除き、歩道幅が十分あるところは関係行政と調整できないものかと感じた。
- (3) 街路樹が整備されている通りでも、電線地中化が進んでいない場所も見受けられた。樹木自体も大切だが、見せ方も重要と思う。電線地中化がなされているところはすっきり見え見栄えがあった。電線地中化を今後も推進していただきたい。また、計画と実績も知りたいところである。
- (4) 目黒川護岸では樹木が無いところが見受けられた。舟運での桜見物の時、寂しさを感じる。また、京浜運河のモノレール側、勝島運河入り口でも同様に感じる。

② 「水」について

- (1) 品川区内には栈橋が多く設置され、水に親しむ環境は整備されている。その栈橋の利使用方法、関連する品川区有施設の配置などに全体計画・工夫が必要と感じる。
- (2) 河川下水道課から下水道管幹線敷設工事、立合川の雨水を勝島ポンプ場からの放流などの説明があった。水質保全のために非常に良いことと思う。今後の運河・河川の水質向上に向け、下水道施設における生活排水と雨水の分離の度合い、生活排水の処理状況などが気になる。

③ まとめ

水とみどりの基本計画・行動計画策定およびその検討に当たり、品川区の全体計画との整合性が重要と

考える。全体計画との整合性を取りつつ目標の実現に向かい、過去から未来にわたる取り組みを10年ごとに見直し・実施することにより、区民が満足する「水とみどり」の景観ができていくと思う。長い年月がかかると思うが、目標に向かい一つずつ着実に進めていくことが重要と考える。

■ 小野委員

現場視察において、水辺を中心にしたことから品川区が「水とみどりの基本計画」と銘打って計画を策定している考えや、水辺を大切に考えていることが伝わってきた。ただ、区民の方が気軽に水辺を利用するには少しハードルが残されていると感じた。また、みどりに関する事例が細分化され屋敷林が失われた宅地分譲地と木密の共同化による建替整備の二事例だけだったのは残念であった。特に、前回の委員会で民有地のみどりが減少しているという話を伺っていたので、西品川一丁目地区では開発面積・開発前のみどりの量、開発後のみどりの量、宅地分譲に先立ってどのような協議をされたのかなどの説明が欲しかった。また、木密同潤会地区であれば、整備前後のみどりの量の変化についての説明も欲しかった。可能であれば、次回の委員会の中で西品川一丁目地区に対して、どのような取組を行ったかを補足していただければ幸いである。なお、前回の委員会で国土交通省答申に言及されていたことから、既存公園の利活用の視点を盛り込みたいとの思いを感じましたので、既設公園の状況についても見せていただければ良かったと思う。機会があれば是非見せてほしい。よろしくお願い致します。

■ 関委員

私の住んでいる旗の台1丁目、荏原第二地区町会連合会（11町会）は西側を大田区、北側を目黒区と接している、品川区でも北西部に位置している。

50年以上前に地区を流れていた立会川が暗渠になり、以来、みどりはもとかく、水辺を身近に感じることはなくなってしまっていた。

今回、舟による目黒川の視察は非常に新発見で、改めて品川区南部は水の街でもあると思った。五反田に船着場が整備されたのには驚いた。また、季節の花々が地域の人たちによる努力で彩られた勝島運河両岸や、橋のライトアップ・水上レストラン等も魅力的な観光スポットになると思った。

余談だが、水上レストランをみたとき、名作「ローマの休日」が思い浮かんだ。オードリーヘップバーン演じる王女の乱闘シーン。工夫次第で品川区の名所になるのでは・・・？